

今 ふたたび 新島襄・内村鑑三・新渡戸稲造！

～ その現代的意義 ～

順天堂大学医学部 病理・腫瘍学 教授
 順天堂大学国際教養学部 教授
 一般社団法人 がん哲学外来 理事長
 「明日を考える会 ～次世代の社会貢献～」
 会長 樋野興夫

『われ 21 世紀の新渡戸とならん -新訂版-』（イーグレブ）が発行された。初版（2003 年）から 15 年過ぎても、内容に変更の箇所は「無し」である。「人生の基軸」とは何かを改めて学んだ。

「人生の歩み」は、肉付けであろうか。若き日に読んだ、内村鑑三の「商売成功の秘訣 10 か条」の第 10 条「人もし、全世界を得るとも、その靈魂を失わば、何の益あらんや。人生の目的は金銭を得るにあらず。品性を完成するにあり。」が鮮明に甦る、今日この頃でもある。

BS 日テレ「深層 NEWS」生放送（2018 年 1 月 31 日 22:00～23:00）『俳優＝小西博之氏 VS がん哲学医師＝樋野興夫氏』に出演した。『いつものように先生は終始穏やかで優しさに満ち溢れてました。――』、『改めて、お人柄が良く理解出来ましたし、環境と物事に動じない姿勢に深い感銘を受けました。』、『珠玉の言葉の数々に、清々しく、静かな、しかし、確かな力を

頂きました。』など、心温まる愛情溢れる、勇気づけられるコメントを多数頂いた。

私の今年の夢は、シンポジウム『今 ふたたび 新島襄・内村鑑三・新渡戸稲造！～その現代的意義～』の開催である。その一貫として、軽井沢の『内村鑑三記念 石の教会』の近くで、今夏の海の日（7 月 16 日）に、氏家純一 東京女子大 理事長『女子高等教育と新渡戸稲造』と、恵泉女学園の宗雪雅幸 理事長『新渡戸先生の机』による公開シンポジウム「新渡戸稲造 軽井沢夏季学校 校長就任 100 周年記念」（主催：軽井沢夏季がん哲学学校）が企画されている。

東京女子大学（初代学長：新渡戸稲造）、恵泉女学園（創立者：河井道の師が新渡戸稲造）の創立には、新渡戸稲造が共に関係しており、私は両校の理事を仰せつかっている。私は『国際教養と新渡戸稲造』のタイトルで話す予定である。乞うご期待である。まさに、『明日を考える会 ～次世代の社会貢献～』の実践ではなからうか！

最近、「がん哲学外来」で、多数の患者と面談をし、『同じ条件の中にも、あるひとは生きがいを感じられなくて悩み、あるひとは生きるよろこびにあふれている。このちがいはどこから来るのだろうか』（神谷美恵子著『生きがいについて』）の問いの原点回帰の日々である。『人生いろいろ』である。

「次世代の社会貢献について」

大弥 雅昭

近年、様々な社会貢献が増えていく気がします。ここ数年の急速なネットやマスメディアの発達によって、今までは聞いたことが無い土地や国で発生した自然災害・疫病・武力紛争も、タイムリーにグローバルなニュースとして知ることができる時代になりました。

被害を受けた人々の苦悩が画像を通じて伝わり、これに対して国や地域を超えて、いち早く助けの手を差し伸べようと、日本国も救助隊や医師団の派遣などを積極的に行っており、国としての社会貢献を感じます。

しかし、翻って一個人として考えた場合、自らの時間と手間をかけて社会貢献をしている人はどのぐらい

いるのでしょうか。

私自身、仕事が忙しく休日に独り暮らしの母の介助サポートをしていると、それだけで精一杯でなかなか社会的なサポートまでできないのが現状です。

ただ、多様化している家族の在り方や社会環境をめぐっては、どこかに「誰かを思っている」という利他への想いを個々が少しでも持ち合わせないと、ますます世知辛い世の中になってしまう気がします。

これからの社会貢献を整えていくには、国や企業などが社会貢献に費やす時間を設け、そういった環境を作っていくことも大事だと考えます。

明日を
考える
ヒント

＜チャップリンの名言集より＞

- ①人生に必要なのは勇気と希望とほんの少しのお金だ。 ③死のように避けられないことがある。それは生きることだ。
 ②幸福を手に入れるための戦いは美しい。 ④人生はクローズアップで見れば悲劇。ロングショットで見れば喜劇。